

会議名称	第5回 掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会		
開催日時	令和4年7月16日（土）13:30～15:00	開催場所	環境資源ギャラリー 大会議室
参加者	検討委員：平井委員長、鈴木副委員長、石川委員、木村委員、村上委員 掛川市：高柳副市長、都築部長、松永課長、石山主幹 菊川市：赤堀副市長、鈴木部長、戸塚課長、中畠係長 傍聴：計32名（市民27名、市議3名、プレス2名）、 Youtube 視聴：15名(最大同時接続人数)		
1 開会（13：30）（司会：石山主幹） ・大橋委員について、所用により本日欠席となる旨の連絡をいただいている。 2 挨拶（平井委員長、高柳副市長、赤堀副市長） 平井委員長：市民の皆様につきましては、毎回見守っていただいております。感謝申し上げます。 ・3月21日の第1回検討委員会から本日で5回目となる。スピード感を持って検討を進めさせていただいた。今回を最終の検討委員会とし、一定のまとめをさせていただきたい。 ・委員の皆様の貴重なご意見頂きたい。 高柳副市長：お忙しいところ、また雨天の中、お越しいただいている委員の皆様、傍聴者の皆様、ライブ配信の視聴者の皆様に感謝申し上げます。 ・今年は6月下旬に梅雨が明けたが、7月に入っても天気が安定しておらず、先週末や本日、大雨警報が出ていることから、今後の天気が心配である。 ・前回の第4回検討委員会において、『最終結論ではないが、施設は公共が建設すること、管理運営は効果的・効率的の観点から民間を活用すること、適切な施設運営を行うこと、住民の安心度を高めるモニタリングの構築が大切であること、施設規模は日量60t×2基の120t炉が適切と見込まれること』が示された。 ・前回の委員会のモニタリング体制について県内の他市の事例を整理したため、ご検討していただきたい。 ・これまでの検討委員会の意見を総括した議論となることを期待する。 ・本日も委員の皆様より忌憚のない意見をいただきたい。 赤堀副市長：委員の皆様におかれましては、第5回の検討委員会出席に感謝申し上げます。 ・短い梅雨があけたが、梅雨時より雨が多く、気温も上がっているため、体調管理にはお気を付けていただきたい。 ・菊川市では7月11日に市議会に検討委員会の中間報告をした。議員の皆様からは、『処理方式ごとの事業費や残渣量の検討が必要であること、現施設の課題を整理すること、管理運営に民間の力を借りる場合、安定的な運営のためには、管理会社と関係構築が大事であること』といったご意見をいただいた。 ・安心安全安定的な施設運営を行うために、委員の皆様の意見を基礎として、さらなる検討や市民に説明をしていく必要があると感じた。 ・本日もご検討をよろしくお願いする。 3 議 題 平井委員長：資料1と資料2については関連する箇所があり、一括で議論したいため、事務局に資料1			

と資料２を一括で説明するようお願いする。

石山主幹：ご説明の前に、議題の趣旨について申し上げる。

- ・前回の検討委員会のまとめとして、『最終結論ではないが、事業方式については、公設で、運営管理において効果的・効率的に民間の力借りるとともに、住民の安心度を高めるモニタリングの構築が必要である』と示された。それを踏まえて資料１と資料２について説明させていただく。

(１) 民間力の活用方法とモニタリング体制について(資料１)(説明：伊藤主事)

(２) 掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備における重点事項(資料２)(説明：石山主幹)

～ 説明 ～

意見交換

鈴木委員：掛川市には１９６の公共施設があり、多くの施設で老朽化が進んでいる。維持や施設更新には多額の費用が掛かってくる。少子高齢化や人口減で税収増が見込めない中、社会保障費の増加となり、公共施設の財源が限られ、大幅な赤字が想定される。

- ・令和元年から行財政改革審議会で委員をしており、公共施設の今後５０年間の在り方について検討してきた。その中で、縮小して充実(縮充)や長寿命化、統合や民間力の活用等の意見がでた。
- ・例えば、学校給食においては、学校ごとが準備する方式から、共同調理方式に推移してきた。厳しい衛生環境基準を満たし、アレルギー対策が確保できる、安心安全な給食が安定的に供給できているということ。
- ・給食委員会等といったものを開催し、保護者等がモニタリングを実施していることで、民間力の活用ができている。
- ・公設で民間力の活用していき、日々の運転管理を事業者、監督指導を公共が行うとともに、高いレベルでモニタリングを実施していくことを確認していく必要がある。

平井委員長：他自治体の第３者機関でモニタリングを実施している委員もいるため、意見を伺いたい。

村上委員：私は、袋井市森町広域行政組合の中遠クリーンセンターでモニタリングの外部評価委員を十年近く実施している。

- ・焼却炉がシャフト式であり、ストーカ式と比較して機械的に動作する部位が少ない。設立当初から、外部委託で包括的な委託を実施しており、プラントメーカーの関連会社が運転管理を行っている。
- ・半年に１回、モニタリング委員会を開催していたが、現在は１年に１回開催となっている。
- ・昨年、施設付近の土壌のダイオキシン類の濃度が高かったことがあり、解析及び拡散計算を実施した。施設から発生したダイオキシン類をパターン分析し、比較したところ、施設から排出されるダイオキシン類と付近の土壌・水質は関連がなかったことが判明した。
- ・モニタリング委員会では、スラグ等といった排出物のデータやどのように有効利用されているか、また、火災事故の原因及び再発防止策等の検討をしている。モニタリング委員会は非常に有効であり役立つと考えている。
- ・施設の玄関に排煙の測定結果が常時示されており、市民がいつでも確認できるようになっている。

平井委員長：袋井市森町広域行政組合の中遠クリーンセンターは、シャフト型のガス化溶融炉であり、日本製鉄製の鉄を溶かす溶鉱炉のようなものである。焼却炉は８００℃以上で焼却するこ

とが義務付けられており、ストーカ炉等は850～950℃で焼却している。一方、シャフト型は千数百度で溶解しており、灰が排出されない代わりに、道路の路盤等で使用されるスラグが排出される。

- ・モニタリングにおいては、施設の特徴を踏まえた体制が必要であり、モニタリング方法や項目を具体化していく必要がある。
- ・日常の環境調査結果等について、異常値が発生した場合にごみ焼却場と関連があるか確認をする必要がある。今回の中遠クリーンセンターのダイオキシン類のケースは、施設とは関連がなかったことを事例として説明いただいたと認識させていただく。

鈴木委員：村上委員の発言より、いつでも市民が施設に来て環境調査結果等について確認が取れること、いわゆる安全の可視化が大切であると感じた。

木村委員：モニタリングについて、問題発生時に管理運営している民間事業者には『アドバイス・注意・警告・業務改善命令』等どのように対応するのか。権限の問題になるかと思うが、民間事業者にどのように問題点をフィードバックするのか議論する必要がある。

- ・第3者機関や専門職員の設置は良いが、形骸化が心配である。安全であり、市民が安心して業務運営のために、もう一步踏み込んだシステム作りが大切である。

石川委員：ネットゼロ社会において不確実性が高いことを、前回から説明させていただいた。

- ・ごみ焼却炉について一定の規模以上の施設は、発電設備がある。発電した電気は施設で使用するとともに、余った電気を売電し、市の一般財源としている。財政のみの観点では、市はプラスチックや紙を焼却したい事実がある。しかし、掛川市・菊川市は全国においてもごみ減量がトップクラスであり、紙やプラスチックの資源化と焼却が両立している。これは、公共が行っているため、成り立っているが、民間事業者に管理運営を委託すると、一般的に民間事業者に売電収入が入ることとなるため、紙とプラスチックを焼却したくなると思われる。
- ・2050年のネットゼロに向けて、分別が進んでいき、ごみが減量されていくと売電収入が減っていく。その結果、民間事業者に利益の損失が発生してしまうことが想定されるため、売電収入を民間事業者に入れない等といった対策や一定の公共の関与が必要である。

平井委員長：公共の専門職員の配置は良いと思うが、専門職員の人となり等の個性が出てしまった結果、民間事業者とのコミュニケーション不足や専門職員の高圧的な対応等により、適正な運営管理に問題が発生した事例がある。

- ・他自治体の事例を見ると、人選において人となり等の個性が大切である。
- ・家庭ごみを主体とした一般廃棄物の処理責任は各自治体にある。廃棄物処理法第6条において、各自治体はごみ処理基本計画を策定し、計画に基づき適正にごみ処理する責任がある。
- ・民間に委託した場合であっても、市に最後まで責任があるため、掛川市・菊川市において、安全性を市民に担保する仕組み作りが大切である。公共の専門職員の配置やモニタリング体制において、ごみ処理施設の特性を踏まえて検討を進めていただきたい。

(3) これまでの検討委員会の経過について（資料3）（説明：石山主幹）

～ 説明 ～

意見交換

平井委員長：検討委員会の総括となるため、委員からまとめを踏まえた意見をご教示いただきたい。

鈴木委員：リサイクルプラザの火災、カーボンニュートラルといった時代の変化の中で、施設のあり方について、基本的な方向性が検討されてきた。施設整備に向けたスタートとして、全体像としては、このまとめ方で良いのではないかと思います。

石川委員：2050年のネットゼロ社会を意識した計画であり、これまでと同じ考えではいけないと改めて考えて気がついた。

- ・最先端の計画であり、非常に難しいチャレンジを迫られていると感じる。
- ・どこが判らないか等について集中して発言してきた。検討委員会は、自身の学びになったとともに、ネットゼロ社会における日本全体での意義付けでないかと感じる。

平井委員長：一昨年、2050年のカーボンニュートラルが打ち出されたことやサーキュラーエコノミーいわゆる循環経済の構築において、今年の4月からプラスチック資源循環促進法が施行され、プラスチックの使用者と製造者において、プラスチック資源において全面的な見直し等がスタートした。そういった観点を踏まえて検討していく必要があると意見を頂戴したと認識させていただく。

木村委員：2市が市民対話集会を開催し、地域の意見を吸い上げて検討委員会に反映できたのが良いことと感じた。これからも市民の意見を聞きながら、行政を行っていくのが良いのではないかと思います。

村上委員：ごみ処理については考え方が昔と今は大きく変わってきている。以前は、プラスチックについては焼却すると温度があがるため、燃えるごみと判断した自治体があったり、燃料の一種という考えがあった。

- ・プラスチックメーカーと付き合いがあり、20年前には、生分解性プラスチックの研究会に所属していたことがある。以前は、認識があまりなかった生分解性が、レジ袋の一部に使用されている等、時代の変化の流れを感じる。
- ・どの焼却施設でも、玄関に排煙量・成分等の記載、いわゆる可視化が行われている。環境資源ギャラリーはなかったため、今後の施設設計時に記載をお願いしたい。
- ・ストーカ炉は焼却量の10%の灰が発生するため、埋め立てに関して、最終処分場を含めた検討が必要である。

都築部長：施設の安全運転の可視化は重要である指摘をいただいた。現施設は玄関に排煙状況の記載があるが、目立たないため工夫したいと思う。

- ・元々、『ごみを焼却して発電し、それを場内利用することでコストを削減する。その後、余電力を地域に供給し、温室効果ガスの発生量を減らす。』という考えであったと思っている。
- ・検討委員会では1歩進んで、カーボンニュートラル社会において、リサイクルを考えた製造やゴミを出さないこと前提とした生活等、廃棄を前提としない考えがカーボンニュートラルに向けた考えであると思う。

鈴木委員：平井委員長の新聞記事を読ませていただいて、サーキュラーエコノミーの重要性を改めて感じた。

- ・ごみが循環していく、商品の購入時に使用後のことまで考えて購入することは、新しい考え方であり、また、今後カーボンニュートラル社会になっていくなかで、先陣をきって施設整備について検討してほしい。

4 その他

平井委員長：第4回検討委員会までで、4点について整理された。

- ① リサイクルプラザの火災に伴い、施設の一部取り壊しによる、120t／日の一般廃棄物処理施設の建設が可能となったこと。
- ② 新施設の供用開始前倒しに伴う、財政負担の軽減が期待できること。
- ③ カーボンニュートラルの社会より焼却するごみ量の減少が想定されること、カーボンプライジングの視点から焼却行為、つまり排煙に対して、コスト負担の発生が予測されることを踏まえた、施設規模の検討が必要であること。
- ④ 日本一ごみ量が少ない市であるという市民の誇りがあること。

平井委員長：第5回検討委員会を踏まえた本検討委員会のまとめをさせていただく。

- ① 掛川市菊川市にとって日量240t規模の産業廃棄物と一般廃棄物の混焼施設は適切ではないと考える。
 - ② 一般廃棄物のみを焼却する日量120t規模の施設の早期完成に向けて努力を進めることが望ましい。
 - ③ 行政の責任の明確化、民間の経営力の発揮、カーボンニュートラルに向けた国策への適切な対応が期待できること、公設公営の課題点を解決できる『公設＋長期包括的運営委託方式』の民間活力の導入を優先的に検討すること。
 - ④ 安定的で安心安全な施設稼働のために、運転管理の評価については、民間の専門性を最大限に活用するために、行政に日々の運転管理を確認する専門職員の配置、運転管理を委託した民間事業者へのモニタリング体制を構築、これらをさらに2重3重に確認する外部有識者の評価委員会を設置することが望ましい。
 - ⑤ サーキュラーエコノミーの時代やカーボンニュートラルの達成に向けて、市民とともに、より一層のごみ減量政策に取り組んでいただきたい。
- ・本委員会の内容を取りまとめて、7月24日（日）に提言書の提出を予定している。
 - ・委員の皆様においては貴重なご意見を頂戴したこと、市民の皆様においては見守っていただいたことに感謝申し上げます。

次回日程

司会：第6回掛川市・菊川市新廃棄物処理施設整備検討委員会（提言）

令和4年7月24日（日） 10：30～ 掛川市役所 庁議室

（※ライブ配信・傍聴はなし。）

5 閉 会（15：00）（挨拶：高柳副市長）

高柳副市長：委員の皆様の熱心な議論に感謝申し上げます。

- ・モニタリングの体制の必要性、重要性を改めて認識した、今後の制度設計の参考にさせていただく。
- ・施設整備においても、カーボンニュートラルの考えが大切であると改めて感じた。
- ・3月21日に第1回を開催し、4ヶ月間で5回の開催とタイトなスケジュールであったが、委員の皆様の論点を整理した、効率的な深い議論に改めて感謝申し上げます
- ・提言書のまとめについて委員の皆様よりしく願います。

－以上－